

「公益財団法人 日本城郭協会 平成27年度事業計画書」

平成27年3月

1、「日本100名城スタンプラリー強化及び城カード発行」

当協会選定の日本100名城を探訪する「100名城スタンプラリー」はますます評価が高く、100名城登城達成者は600人を超えた。

テレビや新聞などで100名城及びスタンプラリーが頻繁に紹介されることで、人々の城郭への関心が一層高まっている。

こうした状況をさらに発展させ、城郭文化の振興に寄与する事業として新たに「日本100名城城カード」を発行する。これは100名城ごとにその城を紹介したカードを作成、登城記念として有料頒布する。

1枚200円を予定しているが、この収入の半分は各城が保存・整備費に充て 残りの半分はカード製作費および協会の「親子名城見学会」「城の自由研究コンテスト」の運営費に充てる。

2、「親子名城見学会・城の自由研究コンテストの継続・強化」

第14回の「親子名城見学会」と「城の自由研究コンテスト」は児童・保護者さらに教育関係者からの評価も高く、大きな教育的成果を上げているが、本年度も一層の充実を図る。

具体的には「名城見学会」では話題性の高い城で開催するほか、開催城の増加、城のミニ勉強会の実施など運営方法を改善する。また「城の自由研究コンテスト」は応募者のためのPRをさらに強化する。年度末には報告書を刊行する。

3、「日本城郭検定の充実・強化」

日本城郭検定は本年は2回開催する。6月に予定している第6回検定では受験者からの要望にこたえて最上級の1級クラスを新設する。

4、「城郭講座・城郭セミナーの開催」

各大学の社会連携部門と提携して城郭講座や城郭セミナーを開催する。本年度は明治大学と提携して5月から7月までの間に6回にわたって城郭講座を開催する。

また各都道府県や各市の生涯学習部門から「城講座」の依頼が最近多くなっているが、これらの要望には積極的に対応して、人々の城への関心の高まりに応える。

5、「学術委員会の活動強化」

学術委員会の活動を強化する。具体的には「日本城郭検定」の問題作成を主導するとともに、「城郭講座・城郭セミナー」開催など積極的に対応する

6、「ヨーロッパ100名城の調査・研究会」

「ヨーロッパ100名城」の社会的認知度を高めるための調査研究の旅行企画などを旅行会社と提携して実施を検討。

7、「テレビ・新聞・出版物への監修・助言の体制強化」

テレビ・新聞などマスコミの城郭に関する問い合わせには、学術委員と協力して事務局全体で対応する。また一般の人々からの質問にもきめ細かく回答して感謝されているが、データの整備など体制をさらに充実させる

8、「会報・ホームページの一層の充実および会員へのサービス強化」

会報の増ページとホームページの改装では、会員からの評価を得たが、会報では会員の寄稿欄を設けるなど一層の充実を図る。また多くの会員からの寄付に応える意味でも会員が参加できる事業への特別優待制度や会員相互の懇親と情報交換など会員サービス強化に努めると共に会員増強をはかる。